

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は71.5%（基礎74.4%，活用65.0%）と目標値，全国平均正答率より高い。・「漢字を書く」「言葉の学習」「文章を書く」項目で全校平均正答率を下回っている。このことから既習事項の漢字や言葉の習熟が不十分であることが分かった。また、「文章を書く」問題については，指定された条件の作文を短時間で書く活動が不十分であったと考える。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">①目的を意識して，中心となる語や文を見付ける。②相手や目的を意識して，伝えたいことを明確にして書く。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">①音読や視写を通して，文章への理解を深める。音読も丸読みや一斉音読，交互読みなど，様々な方法を用いる。②毎週末に日記の宿題を出すことで，書くことへの抵抗感を徐々に減らせるようにする。また，授業内で振り返りなどを書かせた際には，上手に書けている児童を取り上げ全体で共有する。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">①叙述を基にした読解力を身に付けるために，自分の考えの軸となった教科書の言葉に線を引かせる。②漢字の間違いに気を取られないように，まずはタブレット機器を活用して文章を作成させる。その後，用紙やノートに清書させる。作成した文章は学級内で共有し，互いの文章を読み合う活動を取り入れる。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①5年生の漢字や言葉に加えて，1～4年生で学習した語彙の習熟を図る。②結果から述べる文章の書き方に慣れさせる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①(1) ベーシックタイムで毎回漢字小テスト得点9割以上を取る。①(2) 授業内で漢字や言葉，短文読解に特化した学習を月に2回行う。②毎朝のテーマスピーチで「話す」時の文章構成を考えさせる。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①5年生の漢字では，毎週末に小テストを行い，平均9割以上を取ることができた。②タブレットで文章の校正を行うことで，文章を簡潔に書くことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">①1～4年生の漢字の習熟が不十分である。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・「がんばったことは～がんばりました。」「できたことは，～できました。」など繰り返して文章を話したり，書いたりするので引き続き伝えたいことを先に言う指導を行う必要がある。・漢字では，繰り返し書く活動をしていないと忘れてしまうので，小テストを計画的に行う必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを論理的に話すことができる。・文章を書いた後，見直しを行い自分で最低限の誤字脱字に気が付くことができる。	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 社会科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は61.7%（基礎68.2%，活用45.7%）と目標値（51.7%），全国平均正答率（51.7）より高い。・「ごみのしゅりと利用」のごみの減量の工夫について，複数の資料をもとに判断する問題で誤答を選択した児童が多かった。図や絵の資料ではなく，文章で書かれた資料の読み取りに課題があることが分かった。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>（1）令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">①新出用語や地図記号を覚える。②本土の一般的な地理的環境についての理解を深める。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">①用語を口に出して唱えさせたり，フラッシュカードでゲームをしたりするなど，繰り返していく中で定着できるようにする。②教科書や写真資料を用意しそれぞれの地域の特徴について気付かせるとともに，身近な地域の様子と比較させる。 <p>（2）今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">①用語を覚えるためにタブレット機器を活用し，「学びのキーワード貯金」を行う。グーグルスライドに重要語句を書き溜め，単元の最後にその語句を活用してまとめのスライドを作成する活動を行う。②単元のまとめの際，名産品が記された地図を活用して都道府県の復習を行う。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①文章や数値で書かれた資料の読み取りを重点的に行う。②重要語句を使って，単元のまとめを各自スライドで作成させる。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストの正答率や学力テストの結果。②スライドの内容を確認し，評価する。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①タブレットを活用し，データの取捨選択をしながら資料を作る活動を毎時間行うことができた。②単元のまとめに加えて，毎時間キーワードに色を付けて分かりやすくする工夫することができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・テストの際に，問題文を正確に読まず誤ったデータを選ぶことがある。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・テストだけでなく，日々の授業の中で「何を聞かれているのか」を意図的に質問し考える活動を取り入れる必要がある。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・問題文を読み，何を聞かれているのかを正確に把握することができる。	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 算数科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・今年度の学力調査の学級平均正答率は67.5%（基礎73.3%，活用56.4%）と目標値（64.8%），全国平均正答率（67.1）より高い。・小数と分数の問題の正答率が低かった。数直線を使用した数の理解が不十分であることが分かった。・わり算・計算のきまりに関する問題にも課題が見られた。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>（1）令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none">①基礎的な四則計算をする力，特に乗法九九を身に付ける。②問題文を適切に取り取り，図に表して説明したり，立式したりする。 <p>【改善策】</p> <ul style="list-style-type: none">①授業の初めにまず計算を行う。前回の自己記録を超えることができるよう声をかける。②児童同士で考えを共有する時間を設け，多様な考え方に気付かせるとともに，そこから適切な方法を考えさせる。 <p>（2）今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">①ベーシックタイムで百マス計算に取り組む。②数直線で問題文を表す活動を行い，立式につなげる	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none">①問題文を数直線で表現し，立式する流れを定着させる。②わり算・計算のきまりに慣れさせる。	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none">①ノートの内容確認，単元テストの正答率や学力テストの結果。②ベーシックタイムで百マス計算の解答時間を記録させたドットプロットを読み取る。
<p>4. 検証結果（成果と課題）</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none">①年間を通して，問題→めあて→自分の考え→友達の考え→まとめ→学習感想を書く授業の流れを徹底し，子供たちがいつ何を考えればよいのかを毎時間把握することができた②毎週水曜日の朝に百マス計算に取り組ませ，毎回の記録をドットプロットで残し，成果を客観的に把握することができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none">・問題を読まず，単位換算でミスをすることがある。	<p>5. 令和6年度（次学年）の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・次年度中学生になると，定期テストが成績に大きく関わることを伝え，テストの見直しをよくするように伝えていく。・1単位当たりの授業の流れを毎時間同じにし，児童が学習の見通しをもてるようにする。
<p>6. 令和6年度（次学年）末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・多角的に問題について考え，様々な解法を思い付くことができる。	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 理科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の学力調査の結果は、校内平均正答率が70・0%で、全国平均の66.8%を上回る状況である。しかしながら、「電気のはたらき」の記述問題（校内平均正答率0% 全国平均正答率27.3%）に課題が見られた。実験の結果を根拠として説明できていないことが、誤答分析から明らかになった。学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高めることが、今後の課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 実験や観察のねらいを言葉だけでなく絵や図も活用しながら板書したりワークシートに書いたりして明確にしてから取り組ませる。 授業の中で何度も使ったり、言葉カードにして常に掲示したりして、少しずつ身に付くようにしていく。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 論理的思考の土台となる基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。 各単元において、既習内容を生かして問題に対する予想を自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①基礎的基本的な知識や技能を確実に身に付けさせるために、各単元の最後に振り返りや復習を徹底させる。</p> <p>②既習内容を生かして問題に対する予想を各自自分の言葉で表現させることによって、論理的に思考することを習慣化させる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①単元テストにより、知識・技能分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p> <p>②単元テストにより、思考・判断・表現分野の評価がB基準（正答率70%）以上になったか。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 各単元の最後に振り返りや復習を徹底した結果、単元テストにより、知識・技能分野、思考・判断・表現分野双方の評価がB基準（正答率70%）以上になった点は成果である。 予想を自分の言葉で表現させることによって論理的に思考することを習慣化できた点は成果である。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 学力調査等において、学習した知識を使って自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を十分高められなかった点は課題である。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事</p> <ul style="list-style-type: none"> 既習事項を用いて、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を育成すべく、意図的計画的に自分の考えを表現する機会を数多く設定することに留意する。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習した知識を使って論理的に思考し、自分の考えを簡潔に分かりやすく表現する力を高める児童。 	

【別紙2】

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 外国語科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none">・短文のリスニング，スピーキングはよくできる。・長文がテストで流れた際に，何について話しているのか理解が間に合わなくなることがある。1文の細切れで再度流すと理解することができる。・自分のことを英語でどのように伝えればよいか，日本語を考える時に時間を要する。	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none">・令和3年度未実施のため該当なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none">・デジタル教材の音声を流し，聞き取れなかった場合はALTに再度同じ文章を音読してもらう。	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p><方策></p> <ul style="list-style-type: none">①ALTに速度を遅くして長文を音読してもらい，理解度を高める。②伝えたいことを英語で表現できるようにする。	<p><検証方法></p> <ul style="list-style-type: none">①単元テストや授業の様子を見る。②ワークシートを見る。
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none">①2回の再生で聞き取れない場合に，ALTに音読を依頼すると児童は内容を聞き取ることができた。②繰り返し定型文を話すことで，外国語を聞く，話すことに抵抗なく意欲的に取り組むことができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none">・長い文章を一度に読まれてしまうと内容を理解することが難しい。	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none">・CDだけに頼らず，ALTを活用して生きている言語に触れさせる。・中学生に向けて，書くことにも積極的になるよう，多くの定型文に触れる。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none">・外国語に臆せず，積極的に聞いたり，読んだり，話したり(やり取り，発表)，書いたりすることができる。	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 音楽科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和5年度の「学びのスタンダード授業アンケート」において「授業が好き」と答えた児童は、A 84%、B 16%となっており音楽への関心が高い。「学習したことをわかっている」という項目についてはA 100%であった。今年度は上昇しているため、この1年間で授業に対する気持ちに変化があったようである。この気持ちの変化を持続させられるよう授業を工夫し、取り組んでいきたい。</p> <p>本年度の課題は、器楽分野において、基礎的な技能は身に付いているが、自分の感覚に頼って演奏しているところが見受けられる。音楽的な知識（強弱やフレーズのまとまり）を使いながら、曲想に合った表現ができるようにしていきたい。</p>			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>「基礎的・基本的な演奏技能を習得する」となっており、その改善策として絵や図で示された演奏のポイントを用いて指導するとなっている。その結果、視覚化によって、音楽の構造を考える力が向上したことが成果として挙げられている。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <p>器楽分野の単元の中で動画を数回撮影し、最初の発表から最終の発表までどのような変化があったのかを自分たち自身で確かめている。「自分たちがもう少しここを意識すればもっとうまくなる」ということを体感することができるため、“もっとさらにいい演奏をしよう”という気持ちをもって取り組んでいる。</p>			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><方策></p> <p>①授業内での実技練習や発表の様子を記録する。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p><検証方法></p> <p>①授業内での実技発表の分析。(他者からの意見)</p> </td> </tr> </table>		<p><方策></p> <p>①授業内での実技練習や発表の様子を記録する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業内での実技発表の分析。(他者からの意見)</p>
<p><方策></p> <p>①授業内での実技練習や発表の様子を記録する。</p>	<p><検証方法></p> <p>①授業内での実技発表の分析。(他者からの意見)</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p><成果></p> <ul style="list-style-type: none"> ・音楽会では自分たちの力を発揮することができ、周りの反応を見て、手ごたえを感じる事ができた。 <p><課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業の発言において、理解しているがなかなか手の挙がらない児童がいることや、自信なく実技に取り組んでいる児童がいる。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自信のない部分があるので、どの分野もオールマイティーにできる強みを自覚できるよう、言葉がけの内容を見直し、更に技能面が向上するよう指導をしていく。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <p>最上級生として、下級生から「あんな風に演奏したい」と思わせられる児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 図画工作科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度1学期アンケートでは、「図画工作の授業が好きか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えている。以上の調査や授業観察の結果から、授業への興味・関心が高く学習内容も定着していると考えられる。課題としては個々の能力差が激しく、時間配分への意識が弱い面が見られるので授業者側の働きかけに工夫が必要である。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 【課題】 表したいことに合わせて表し方を工夫する。 【改善策】 表現したい気持ちが強すぎるため、手や体全体を十分に働かせて、材料や用具の特性を理解しながら児童が自分の表したいことに合わせて技能を働かせることができるように図示や解説を随時取り入れた指導を行う。 【評価】 ほとんどの児童が次々にアイデアを出して、やってみたいことを積極的に試している。構想が膨らむ一方で、アイデアをどう形にすればよいか分からずにつまずくことが多く、その際の突破口を見付けるための試行錯誤が少ない印象である。表現を楽しむための知識や技能の土台を固めることの重要性を理解しながら取り組めるような支援をする必要がある。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> この学年の児童のインプットがほとんどなくてもアウトプットを始めようとするほどの勢いをもっているのはメリットの方が多いため、初速は落そうとせず、つまづいた時に既習事項と結び付けながら解決できるような気付きを与える声かけを行っている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。 </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。 ②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。 </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。 ②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。
<p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回授業評価アンケートを実施する。 ②日々の表現及び鑑賞活動の授業観察及び授業を改善する。 	<p>＜検証方法＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。 ②授業デザインの、学期ごとの検討及び指導と評価の一体化を踏まえた次年度年間指導計画。 		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> イメージしたことを形にできずに苦戦する場面は見られたが、ほとんどの児童が浮かんでくるアイデアを基に自ら試行錯誤を繰り返しており、意欲的に活動することができた。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 表現したいことのイメージがなかなか浮かばない児童に対して、例を示すことで躓きを解消できているが、自分でアイデアを出すためのステップを示して実践を重ね、自分らしく発想する経験を積めるようにすることが課題。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 児童が表現や鑑賞の活動に取り組む中で、作りだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培っていくためには、児童の実態に応じた弾力的な学習を展開していく必要がある。発達の特性に応じた題材を常に検討しながら、他教科の教員や学年担任とも連携して、それぞれの学年において育成する資質・能力を効果的に身に付けられるように指導計画を常に修正していくことが大切である。 		
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 豊かな発想を基に自らの表現したい主題を形にすることができるよう、既習事項を活用しながら試行錯誤を繰り返し、表現方法を自ら模索できる児童。 			

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 体育科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度1学期授業評価アンケートでは、「授業が好きか」「学習したことを理解しているか」「授業は分かりやすいか」「質問すると、分かりやすく答えてくれるか」という項目に関して、5名中5名が「はい」と答えている。以上の調査結果から、意欲的に授業に取り組み、体育科に関する見方・考え方を伸長できている。さらに発展させていく必要がある。 新体力テストでは、女子では握力と50m走、男子では握力とボール投げに課題が見られた。また、全体の平均値は全国平均を上回るものが多いが、個人差が大きいことにも留意する。 授業の観察から、運動課題への不安が強いと取り組むまでに時間がかかることもある。苦手な児童ほど試行回数が減り、成長速度が遅れてしまうことが課題である。 	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <p>【課題】</p> <p>①種目に応じた基本的な技能を身に付ける。②安全に気を付けながら友達と協力して活動する。</p> <p>【改善策】</p> <p>①タブレットで動画を撮影するなど、自分の動きを客観的にとらえられるようにする。よい動きは全体で共有する。</p> <p>②児童同士で動きを見合う時間を取り入れる。よい声かけをしている児童を取り上げ、全体で共有する。</p> <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 単元に応じた補強運動を設定し、年間を通して体力の向上に努めている。 学習カードやICT機器を活用し、運動のポイントや自己の技能を視覚的に確認できるようにしている。 個々の体力や技能に応じた課題・ルールを設定し、運動の特性に応じた楽しさを味わいながら、活動することができるようにしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①年間2回授業評価アンケートを実施する。</p> <p>②授業内で実技の発表をさせる。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間2回の授業評価アンケートの実施内容分析。</p> <p>②授業内の実技発表の分析。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>練習に積極的に取り組み、ゲームや発表会等で身に付けた技能を発揮することができた。</p> <p>＜課題＞</p> <p>授業評価アンケートの結果より、「学習したことを理解している」という項目について前期を下回る結果が出た。個別に対応していくことが必要である。</p>	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ICTや掲示物等を使用し、学習した内容の振り返りを行ってきた。次年度はさらに、自己の考えを他者と共有し、学習を深めることができるようにしていきたい。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 運動の特性に応じた基本的な技能を身に付け、協力して課題の解決に取り組むことができる児童。 	

〈授業改善推進プラン 令和5年度第5学年 家庭科〉

<p>1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題</p> <p>令和5年度1学期の授業評価アンケートでは、「家庭科の授業が好きか」という項目に関して、5名中4名が「はい」、1名が「どちらかというとはい」と答え、「学習したことを理解しているか」という項目に関しては、5名全員が「はい」と答えている。以上の調査や普段の授業中の様子から、授業への興味関心は高いことが分かる。また、基本的な知識の定着も見られ、生活と結び付けながら考えることはできている。しかし、内容について考えを深めることや、生活をよりよく改善しようとする工夫や意識に関して課題が見られる。</p>	
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和3年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・該当項目なし。 <p>(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT機器の活用や、実習・実験など体験的な活動を多く取り入れられるように工夫し、内容の理解を深められるような授業を展開する。 ・実習や製作の記録課題、毎授業の振り返りのワークシートを用いて、自身の意見や考えを具体的に表現する機会を増やしている。 	
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <p>＜方策＞</p> <p>①自身の生活を振り返る時間を設け、ICT機器の活用や体験的な活動を取り入れながら、考えを深められるような授業構築を行う。</p> <p>②既習事項を活用しながら、自身の生活をよりよく改善しようと具体的に表現できるように個に応じた適切な支援を行う。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①年間3回の授業評価アンケート、実習や製作の記録課題。</p> <p>②実習や製作の記録課題、ワークシート、題材毎の単元テスト。</p>
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <p>①調理実習などの体験的な活動を通して、実生活と結び付けて考えられるようになった。(課題の記述より)</p> <p>②既習事項をもとに、実際に自身の生活の中で生かせるように工夫する機会が増えた。(単元テストより)</p> <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能の定着。 	<p>5. 令和6年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な知識や技能を定着させるために、実践的で体験的な授業の時間を確保し、繰り返しの技能練習や用語を使用することで、児童の意識を高める。また様々な題材において工夫を凝らして、実習などの機会を増やす。
<p>6. 令和6年度(次学年)末に期待する児童の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・既習事項を活用し、自身の生活をよりよくしようとする意識を高める児童。 	